土岐橋の架け替え事業が本格始動【国の補助事業に採択】

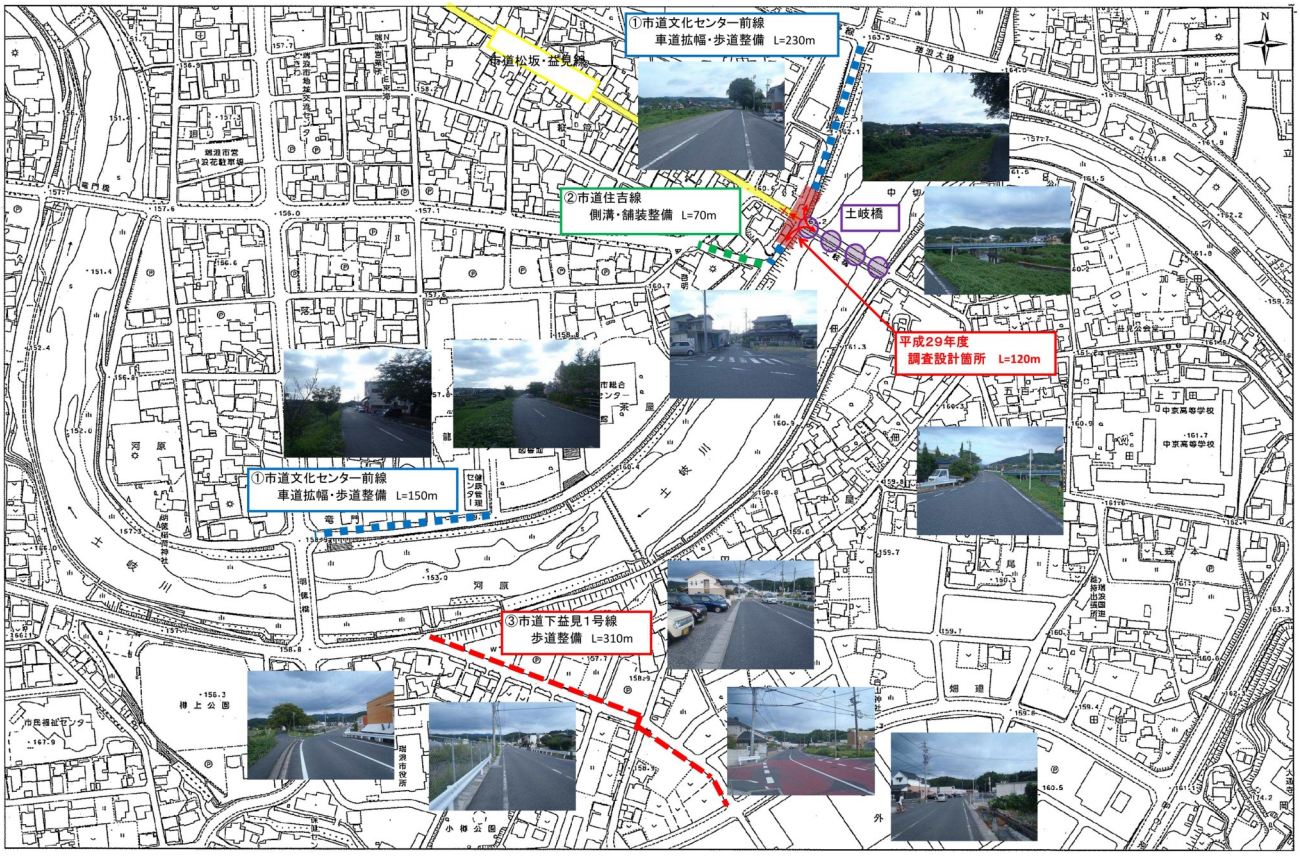
瑞浪市土岐町を流れる土岐川に架かる、
土岐橋の架け替え事業（土岐川改修事業）が、
国の大規模特定河川事業に新規採択され、
「土岐川大規模特定河川事業」として、
補助金を受けられることになった。
本年度、令和２（２０２０）年度は、
国からの補助金、５５００万円を受けて、
土岐橋架け替えの事業主体である岐阜県が、
用地買収に動き出す。

瑞浪市は既に、土岐川右岸の「市道文化センター前線」について、２車線への拡幅・歩道の設置に向けて取り組んでおり、国や県のこの動きを歓迎。水野光二市長は、記者会見を開き、「県による用地買収に全面協力し、地権者や関係者の理解を得ていきたい」と表明した。

土岐橋は、瑞浪市が管理する橋梁（きょうりょう）で、幅５・５メートルの車道橋に、幅２・５メートルの歩道橋が併設されている。車道部分は昭和５（１９３０）年に、歩道部分は昭和４６（１９７１）年に、それぞれ竣工（しゅんこう）。老朽化の進行だけではなく、車道部分の橋脚が、６本と多い上、桁下高（けたしただか）が低い構造になっており、洪水時には、流水を阻害し、浸水被害をもたらすことが、懸念されている。

瑞浪市は、１０年ほど前から、土岐橋の架け替えについて、地元住民から要望を受けており、国や県に働き掛けてきた。国への要望活動を並行しながら、県は土岐橋の「詳細設計」を、市は市道改良の「詳細設計」を、既に済ませており、国の後押しを待つばかりだった。今回、国の補助事業に採択されたことで、総事業費約１０億円の治水プロジェクトが、本格的に始動する（工期は未定）。

瑞浪市によると、家屋補償の対象は３件で、右岸側は２件、左岸側は１件。土岐橋の架け替えの際は、車両は通行できないが、仮設の「人道橋」（じんどうきょう）を架ける。また、右岸側を１・３メートルかさ上げするため、現在は「十字交差点」（十字路）になっているが、「丁字交差点」（T字交差点）にする。三差路になるため、益見方面と瑞浪駅方面、双方からの直進ができなくなる。そのため、車両の通行については、瑞浪市が、市道住吉線を整備することで対応。歩行者の通行については、岐阜県が、スロープを新たに設けることで対応する。

【下の写真＆資料＝瑞浪市提供】

土岐橋架替関連事業位置図（案）